

経済マンスリー

[アジア]

改革前進への期待が高まるインド経済

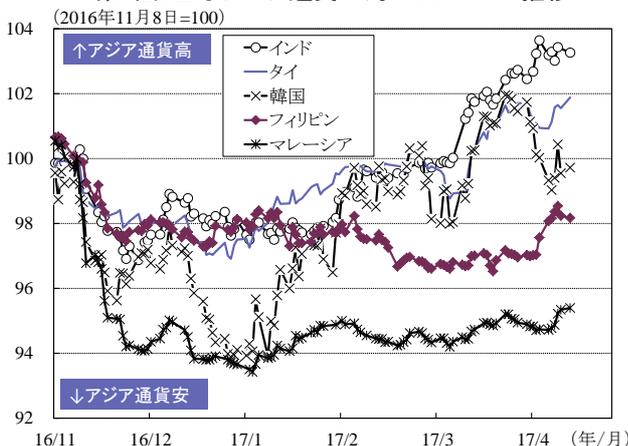
シリアや北朝鮮を巡る地政学リスクが意識されるなかでも、アジアの主要通貨は全体として安定を保っている（第 1 図）。背景には、景気が回復基調にあることに加え、経済面での改革推進や政治面の安定化などを通じて経済のファンダメンタルズがかつてに比べ強化されていることがあると言える。特にインドでは、2 月～3 月かけて実施された 5 つの州議会選挙において、モディ首相が率いる与党インド人民党が、最大の人口を抱えるウッタル・プラデシュ州を含む多くの州で予想を上回る勝利を収めたほか、4 月上旬に物品・サービス税（GST）関連 4 法案が上院を通過したことなどから、モディ首相の求心力の向上による改革前進への期待などがルピー上昇の追い風となっている。

インドの実体経済に目を転じると、昨年 11 月の高額紙幣廃止^(注)と新紙幣供給の遅れに伴う紙幣不足の影響などで、年末にかけて、乗用車や二輪車など高額の耐久財消費の落ち込みをはじめとして経済活動の停滞がみられた。しかし、年明け以降は、貨幣流通量が持ち直しに向かいつつあるほか、主な経済指標も揃って改善傾向が窺われる（第 2 図）。

先行きを展望すると、堅調な内需を牽引役に引き続き高めの成長が続くと予想される。経済見通しの改善などを受け、インド準備銀行（中銀）の金融政策は既に中立スタンスにシフトしているが、影響の大きい米国の利上げペースは過去の利上げ局面に比べ緩やかになる見込みであることなどから、当面は景気に配慮した運営を続け得るとみられる。当面のリスク要因としては、7 月に予定される GST の円滑な導入やインフレ動向などが挙げられる。GST 導入に関しては中小企業を中心に準備不足が指摘されており、運営面で混乱が生じる可能性が想定される。また、モンスーン期の降雨量によっては農産物を中心にインフレ率が高進し、良好な内需の拡大に水を指しかねず留意が必要である。

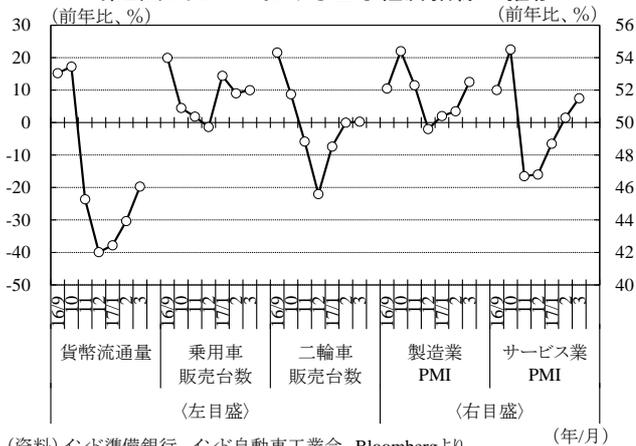
(注) 2016 年 11 月 9 日、インド政府は 500 ルピー紙幣と 1,000 ルピー紙幣の無効化並びに新 500 ルピー紙幣と 2,000 ルピー紙幣の導入を実施。旧紙幣は 12 月 30 日まで新紙幣を含む使用可能な紙幣と交換するか、銀行に預け入れることが可能だった。銀行窓口や ATM での現金引き出しに制限があったが、3 月中旬までには解除された。

第 1 図: 主なアジア通貨の対ドルレートの推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第 2 図: インドにおける主な経済指標の推移



(資料) インド準備銀行、インド自動車工業会、Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 福地 亜希 aki_fukuchi@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。